

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜県岐阜市芥見野畑1丁目25番地		
自己評価作成日	令和 4 年11月 5 日	評価結果市町村受理日	令和 5年3月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokansaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170101998-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和4年12月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染症対策により入居者の皆様には外出制限等ご理解をいただきながらサービスを提供しています。認知症の進行やADLの低下により、シーツ交換や居室清掃等、自己にて行える残存機能の動作が緩やかになっても、見守る介護・引き出す介護を目標にケアプランに基づきサービス提供しています。レクリエーションの充実として、居室に飾れる作品作りや家庭菜園を取り組み、季節感を感じていただくと共に認知症の進行防止につながるよう支援しています。

ホームの理念を職員間で共通理解し、利用者支援にあたっている。また、利用者のエンパワメントを高める観点から、一人ひとりのポテンシャルを引き出していけるような活動に力を入れている。例えば、コロナ禍の影響で外出活動が制限的にならざるを得ない状況にあっても、日々の生活の中で季節を感じていただけるよう、家庭菜園をしたり、ホーム内で様々な行事を行ったりしている。面会等にも制限がある中で、感染状況を把握しながら、できる限り多く面会の機会を設ける等の対応を行っている。さらに、コロナ禍で運営推進会議の開催が困難であり、書面開催としているが、会議資料については、写真を活用する等、ホームの状況を分かりやすく工夫して送付している。また、意見の記入用紙を同封し、いただいた意見をホームの運営に活かしている。地域との交流にも力を入れ、ホーム周辺の清掃活動等を通じて地域との関係を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念のもと、グループホームとしてのチーム目標に取り組み、会議等で共有をし、日頃のケアに活かすよう努めている。	詰所に大きく掲示し、毎朝、全職員出勤後に唱和している。年度目標を立て、職員間で共有し、毎月の会議や6か月ごとの中間反省会、年度末の年間反省会を通じて支援の振り返りを行い、理念に基づくケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域サロンへの参加、保育園児の来訪による交流。散歩しながらの地域の方との交流をしているが、現在はコロナ禍にあって中止している。地域の用水路の草刈り等、地域貢献活動も行っている。	地域の用水路組合と協力をして用水路の草刈りを行い、花を植え、共同で花の管理をしている。地域サロンへの参加を計画していたが、コロナ禍のため、参加を見合わせている。状況を見ながら、再度参加を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の自治会サロンに施設を会場として提供している。施設の運営や理念についての説明、認知症についての勉強会で理解を深めていただいている。現在はコロナ禍にあって中止している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ禍にあって、書面会議で実施している。写真入りで日常の様子、行事をまとめて報告し、郵送している。委員さんから意見・要望をいただき、運営に活かしている。	コロナ禍のため、書面での開催になっているが、写真を取り入れる等、ホームの現状をわかりやすく伝えている。また、書面だけを郵送するのではなく意見書を入れ、意見・要望を伺えるように工夫し、ホームの運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からのコロナ対策対応や各種情報について提供を受けたり、運営の現状報告をすると共に問題点についての助言を受け、連携を図っている。また、情報は職員で共有している。	行政から介護保険制度や新型コロナ情報等の提供を受けたり、加算や配置基準等、ホームの運営について助言を受けている。また、ホームの運営について報告する等して、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月実施される法人内の委員会に出席し、事例検討や意見交流を行っている。日中は玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。行動の全てを危険と捉えず、日常生活を見守る支援を行っている。	法人内で委員会を開催し、それぞれの事業所の視点で話し合いをするとともに、年2回、研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックに配慮し、寄り添う姿勢でケアにあたることで、行動に制限をかけないよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連については正しく理解できるよう外部・法人内で学んでいる。虐待に対する自覚、認識に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部・法人内研修・施設外研修で学び、その内容を介護で話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にはホームの見学をしていただき入居予定者様・家族様の不安や疑問に答えている。(現状、写真や動画で案内している。)契約時には契約書・重要事項を説明し理解、納得を図っている。報酬改定時も家族に説明、話し合いを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し運営状況について報告、家族様の意見・要望を伺う機会としている。現状はコロナ禍により中止している。受診日に様子等を報告し、意見や要望を聞き、得た意見は職員間で共有。運営に活かしている。	コロナ禍の状況にあり、家族会の開催は困難であるが、電話でのやり取りや受診の際に意見等を伺う機会としている。また、通信や介護計画書を作成する際に一言コメントを記入できる用紙を同封し、意見をいただいている。いただいた意見等は、職員間で共有し、運営に活かしている。	今年度も引き続きコロナ禍の状況にあり、家族会が開けない等、意見を聞く機会が少なくなっている。その代替案として、一斉アンケートの実施やSNSの活用をする等して、さらなる意見聴取の機会拡充に向けた取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	経営会議・事業所会議にて職員からの意見を聞き、提案については、代表者・管理者は実現できるよう協力している。グループホーム会議では職員からの意見を聞き、提案については管理者他、実現できるよう協力している。	管理者は普段から介護現場に身を置き、職員の身近な存在となっているので、意見が言いやすい環境にある。また、職員会議や半年に1度の面談等を通じて意見を聞いている。職員からの意見、要望や提案等はホームの運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	安心して働ける環境や条件の設備、向上心を持って働ける環境に努め、研修に参加できる機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報提供して、必要な研修への参加を促している。資格取得の動機付けになるよう勉強会も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員は協議会を通じて同業者との交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状態を把握し、要望や不安等、本人や家族の想いを聞き入れている。本人に寄添い職員との良好な関係に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望を受け止め、どのような対応ができるかの対応策を職員で話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族には不安や想いがある。不安や想いを確認し、必要としているサービスが適切かどうか検討しながら取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を一緒に過ごすことで日々の言動から想いを探り、寄添うことで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係性を大切に家族にしかできない援助をお願いしている。家族と職員が連携を図り本人の安心感につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、関係性の維持・継続に努めている。コロナ禍にあり外出制限はあるが、受診や面会で関係性の継続に努めている。	コロナ禍で制限がある中、感染状況に留意しながら面会の機会を設けたり、手紙等を活用した交流を支援したり、昔からの趣味を活かした活動をする等、ホーム内でできることを工夫しながら行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お互いを支えあい、集団生活ができている。感情の起伏で関係が乱れる時は見守りをしトラブルにならないよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用中止後も家族の相談を受け、できる限りの支援している。利用後の本人の様子を確認し、必要に応じた体制作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者様に寄り添い、待つ姿勢で傾聴している。言動・表情から思いや意向を読み取り、一人ひとりに合わせて支援できるよう努めている。	利用者の意思決定を尊重する観点から、思いや意向の把握に努めている。また、利用者の行動が制限されないよう、見守りながら支持的な支援に努め、利用者が主体的に生活できるよう寄り添うケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活背景等の情報や入所後の対話、家族との会話で知り得た情報を職員で把握し、共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックや1日の生活のリズムで体調を知り、心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族の思いや意向、職員の気付きも取り入れ現状に合った計画書を作成している。定期的にモニタリングを実施し、計画書の見直しを行っている。状態に変化があった場合は、その都度見直しを行っている。	利用者に担当職員がつき、定期的にモニタリングを実施し、ADLや体調の変化に合わせて計画の見直しを行なっている。受診の際や見直しの際には、家族の意向を確認し、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活での気づきや申し送り、連絡ノートで情報を共有している。グループ会議で個別処遇について検討し介護計画を見直し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、柔軟に対応できるよう心掛けている。通院時の送迎や、必要物品の購入も援助している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期だが、ボランティアの方に訪問により歌や踊り等を観賞し楽しんでいただいています。また、買い物や近所の散歩で気分転換を図っている。現在はコロナ禍にあり、中止している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診は家族に付き添いをお願いし、家族も状態が把握できるようにしている。緊急時や病状により家族と相談し、職員が付き添いも行っている。受診後の状況についても、職員で共有している。	医療機関を母体とするグループ法人の施設であり、併設病院の医師が主治医を引き受け、緊急時も含め、緊密な連携関係ができています。整形外科や歯科等の他科受診の場合は、家族同行をお願いしている。受診時は家族が付添い、診療・服薬情報は申し送りノートや口頭、申し送りで職員間で共有している。緊急時は職員が受診支援を行う場合もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特別養護老人ホームの看護職員と情報を共有し、特変時には対応できる体制ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるよう病院関係者と情報交換や相談に努めている。また、早期に退院できるよう家族と相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に法人の方針を説明している。継続し医療行為が必要であれば、本人・家族の意向を踏まえ、今後の治療について確認している。重度化については、ニーズに適した施設を紹介し、利用者・家族の意向に沿った対応をしている。	利用者が重度化または医療的ニーズが発生した場合には適切な対応がとれるよう医療との連携を図っている。重度化の進行でホームでの生活継続が困難となった場合は、心身状態の説明を行なうとともに、利用者・家族の意向に合った医療機関・施設へのスムーズな移行ができるよう支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルに協力病院・緊急連絡先を明記している。施設内研修で応急手当等の勉強会を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人として年二回、昼夜を想定した防火訓練を実施している。訓練を通し新たに対策改善を行い、職員は災害時の対応についての意識を高めている。また、地域の避難施設になっており、備蓄も準備している。	定期的に夜昼を想定した訓練を実施している。訓練は、併設施設と連携して水害を想定した垂直避難も含めて実施している。災害時の職員役割や基本行動、避難経路等について確認するとともに、BCP計画を策定し、緊急事態時に事業継続ができるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしい生活が送れるよう自己決定しやすい支援に努めている。入浴・排泄等、日常的な場面でプライバシーを損ねないように配慮し対応している。	利用者一人ひとりの強みや個性を大切にその人を尊重したケアに努めている。生活背景や習慣・好みを知り、利用者の態度から思いを推測した上で、できないことをさりげなく援助している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活スタイルや自己発言・自己決定を大切に支援している。信頼関係を築き思いや要望等ができる雰囲気作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活歴や習慣を把握し、生活リズムを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	施設内の理美容を援助している。着替えは本人の意向で決めているが、季節に合った衣類を選ぶことができるよう助言をしている。起床時の整容、爪切り等の対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養管理士が献立をたてており、用意された食材を職員と共に調理している。準備から片づけまで役割を分担し協力して行っている。現状、コロナ禍のため、調理は厨房で行っている。嗜好調査を行い、食事が楽しみになるよう支援している。	食事は特別養護老人ホームで調理しているが、ご飯と汁物はホームで用意している。その時々収穫野菜を調理し、添える事もある。利用者の嗜好を確認した上での行事食やおやつ作り等を行っており、利用者の楽しみの一つとなっている。コロナ禍で、黙食励行であるが、ラジオをつける等の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や摂取量を記録している。夜間はペットボトルのお茶を用意し水分摂取できるようにしている。月一回の体重測定の実施・記録を実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後の口腔ケアを声かけしている。不十分な方には見守り、必要時には一部介助し清潔を維持している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握し、さりげない声かけに心がけ、トイレ誘導を行っている。介助の必要な方は誘導し、トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、タイミングに合わせてさりげなく声かけをし、トイレ誘導を行う等、排泄の自立に向けた取り組みを行っている。便秘の方には、水分摂取や腹部症状等確認し、排泄ケアに反映させている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態に合わせ食事や水分量に配慮している。体操等で身体を動かし自然排便を心がけている。本人希望や処方方で下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回を基本に入浴時間を設けている。利用者様の心身状況や希望に沿えるよう対応している。順番や入浴時間、別日にも入浴ができるよう配慮している。	週2回の個浴を基本としている。本人の希望や体調により入浴時間や順番・湯温等を定める等、柔軟性のある入浴支援に努めている。できる限り、自身で洗身してもらっているが、身体状況に合わせて、職員が支援する場合もある。拒否される方には、声かけや時間帯の変更等、工夫して入浴を促している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調を観察し、日中でも休息の必要な方には声かけをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の診察を受け服用していただいている。診察日には症状の変化を医師に報告し指示を受けている。飲ませ忘れ、誤薬のないようチェック表に記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品作りなどの作業の中で一人一人、できそうな箇所積極的に参加していただいている。整理整頓等、できる範囲で行ってもらい、できた事への自信、やりがいにつなげている。調査を実施し、食事やおやつが楽しみになるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物やドライブ等の計画をたて実施していたが、現状はコロナ禍のため自粛している。過ごしやすい気候の日には外に出て花壇の散策や外気に触れ気分転換を図っている。ベランダで家庭菜園をやっており、収穫後は衛生・安全面に留意し食べている。	コロナ禍のため外出は控えている。ホームにはベランダがあり、利用者それぞれに草花や菜園づくりを楽しんでいる。リビングやベランダからは自然の景色を見渡すことができ、近隣の風景を楽しむことができる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金をお預かりし、施設で金銭管理を行っている。買い物時には自分で支払いができるよう支援している。現状はコロナ禍において中止している。個人の嗜好に合わせた飲み物やお菓子類を家族の協力のもと差し入れてもらっており、利用者の楽しみにもなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が電話を希望された時に援助している。手紙や年賀状を書いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日当たりの良い共用スペースで、戸外の景色を見る事ができる。ベランダの野菜に水をやり、成長を楽しんでいる。季節を感じる作品を飾ったり、利用者様の作品を飾っている。室内の温度調節や換気を随時行っている。	共有スペースは採光に優れて明るい。広い空間に個々にテーブルが設置されており、ソーシャルディスタンスが保てるよう配慮されている。感染対策を講じながらも、季節の飾りや利用者の作品が掲示されており、心地良さが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにはテレビ・カラオケの設備もあり、利用者同士の交流や自由に過ごす時間がある。移動には十分な広さを確保し、自由に利用できるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活スタイルに合わせ、使い慣れた家具や調度品を置いている。テレビや冷蔵庫を置き、作品や写真を飾る事で居心地よく過ごせるようにしている。	従前の生活スタイルを大切にしており、居室への持ち込みは自由とし、馴染みの小物や調度品、テレビ等が置いてある。写真や作品を飾り、居心地良く、自分らしく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口は分かりやすいように色分けされている。自立した生活が送れるよう居室の環境は本人の生活スタイルを大切にしている。		